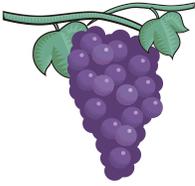


2008年12月7日

経堂バプテスト教会

No. 24



教会短信

牧師 間瀬 善彦

スイスの絵本作家、フェリックス・ホフマンの作品を人から勧められて見てみました。「クリスマスのものがたり」（福音館書店発行）という絵本です。わたしがいままでに見た絵本と違って、素朴な絵に感心しました。クリスマスの絵本というと、きらびやかで美しい母マリアと特別に可愛い赤ちゃんのイエスが描かれていることが多いのですが、この絵本ではどこにでもいそうなお母さんと目立たない普通の赤ちゃんです。その誕生をお祝いするのはごくわずかな人たちが登場しています。背景に貧しい農村風景も描かれていて、そうした素朴さ、貧しさからホフマンのメッセージを聞かされるように思います。

考えてみれば、すべての人の救い主としてこの世に来られたイエス・キリストの誕生はこのようであったのでしょう。その誕生は、世の多くの人に知られることもなく、ひそやかなものでした。生まれた場所もとても衛生的とは言えない家畜小屋で、しかも飼葉桶をベットとしてお生まれになったのです。天使が救い主イエスの誕生を一番最初に知らせたのは、世の王や権力者ではなく、当時人びとからさげすまれる職業であった羊飼いたちでした。人びとからさげすまれていた者たちこそが、救い主イエスの誕生を真に待ち望んでいたからです。

生きることには苦しみが伴います。それにもかかわらず、人間はなぜ生きるのだろうか、という疑問は誰もが一度は考えることではないでしょうか。イエス・キリストはわたしたちのために神の子という身分を捨てて、人となってくださいました。わたしたちの罪の身代りとなって十字架につけられ、そして、わたしたちの苦しみを取り除くためではなく、わたしたちの苦しみを共に担うためにこの世に来てくださいました。今もイエス・キリストはわたしたちの苦しみを共に分かち合ってくださいています。これがクリスマスです。



私のクリスマス

街はすでにクリスマスの飾りや準備が始まりクリスマスのムードが高まってきました。昨今の日本ではなにか商売に流されている面もあります。以前の私はクリスマスが近づくと、なんとなく嬉しく思っていました。

クリスマスというと多くの方は、華やかなイルミネーション、クリスマスツリー、おいしい御馳走、そして子供たちにとっては、サンタさんからのプレゼント、また特に、若い人たちは愛する人と過ごせる時間や場所を思い浮かべると思っていました。私もその一人でした。

私が今の教会に来始めて、聖書を学び、クリスチャンになってからは、考え方が変わりました。それ以前は、表面的な、外面的なものにとらわれて、豪華さや見た目のみにとらわれていました。そしてクリスマスの意義も知らず、単なる娯楽としてとらえていたのです。イエス様が華やかさとは程遠い、貧しい馬小屋で、いわば社会の底辺で生まれたことも何となく知っただけで、その背景のことや、真のクリスマスの意味など、本当に知らないことばかりだということに気づきました。例えば、イエス様は「家畜小屋」で生まれたのに、日本では「馬小屋」と伝えられています。私も長いことそう信じていました。しかし、聖書では馬はどちらかというと戦争や争いのイメージが強いものです。その馬の話については新約聖書のヨハネの黙示録6章1 - 8節で学びました。当時イエス様の乗り物はロバで、ロバは穏やかさの象徴でした。馬小屋は日本独自の解釈だと教えられました。この話を教会で聞いたのはクリスマスの時期ではなく夏の頃でしたが、クリスマスを理解するのに大いに助けになりました。クリスマスをより深く、より新鮮にとらえることもできるようになったのです。

けれどもそれ以上に重要なことは、心からイエス様の生まれた日を祝えるようになったことです。それもクリスマスの時だけでなく、教会でのクリスマスツリーの飾り付け、アドベントのろうそくを灯すこと、そして讃美歌の練習など、クリスマスにつながるまでの教会活動を通して、イエス様の誕生を待ち望み、気持ちを準備して受け入れられるようになったことです。聖書を読むと王とか王様という言葉が出てきます。しかし真の王様はイエス様であることをはっきりと知るようになったことが一番大きいことだと思います。いわゆる特定の国の王や、権威の意味の王ではなく、すべての人に平等な救い主、心の中の王座を占める王だと改めて知ること、イエス様を受け入れていく心を持つことができるようになったのです。イエス様の存在がいかに心強いということも。だからこそ、本当にイエス様が生まれたクリスマスが素晴らしいと思えるようになりました。また信仰を分かち合える大切な人と過ごせる時間も、何物にも変えられない恵みであることがわかりました。ただクリスマスの喜びを分かち合う人がいるということ、またそれを囲む空気さえも尊く感じられるようになりました。

K. T.



わたしの力は、
弱さのうちに完全に現れる。

コリント人への手紙・第Ⅱ 12 : 9

力は、ないよりあったほうが良いもの。でも、力って何でしょう。腕力や格闘技の有段者？たくさんのお金？それとも高い地位でしょうか。この句によると、力は「弱さ」のうちに現れるという逆説めいたことが言われています。これは、神の前に自分が無力であることを認めたときに、神から与えられる力が、その人の内で働くということです。

「聖書の品格」(いのちのことば社)より引用

【クリスマスコンサート】

日 時：12月21日(日) 午後2時～3時20分

出演者：ソプラノ 小松澤 恵

東京農大OB 男声合唱団 コールファーマー

加藤 大喬(音大生)

さやかに星はきらめく、鳥の歌、その他クリスマスソングをお届けします。

お茶とお菓子を用意しています。どなたでもお気軽にいらして下さい。



【クリスマス】

*クリスマス礼拝 12月21日(日) 10:30～11:30

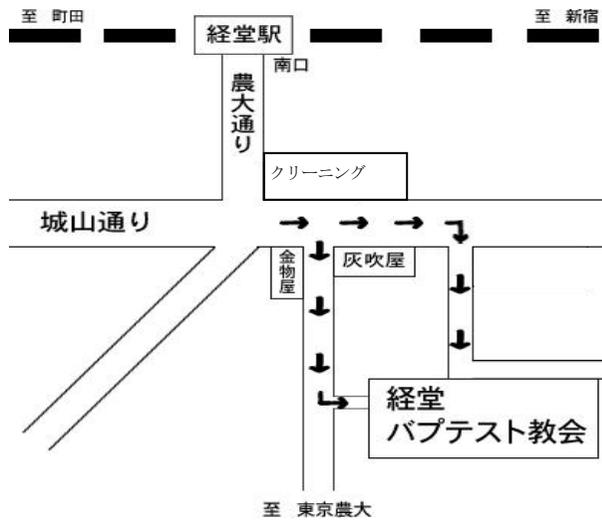
*キャンドルサービス 12月24日(水) 19:00～20:00

キャンドルを灯した中でクリスマスのお話を聞き、賛美歌を歌います。

どなたでもお気軽にいらして下さい。

日曜日は教会へ 集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時30分～2時30分
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。